

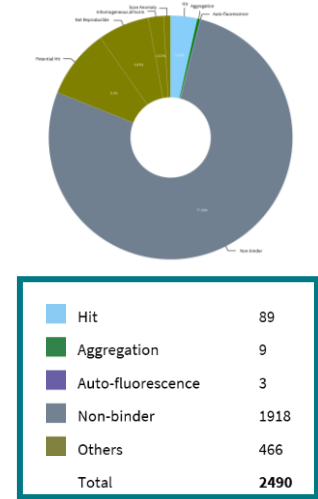
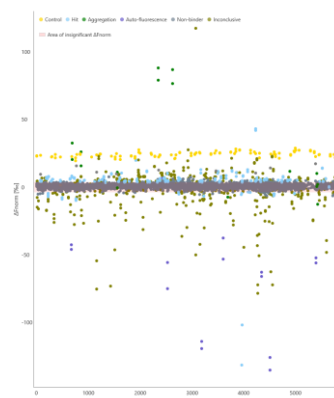
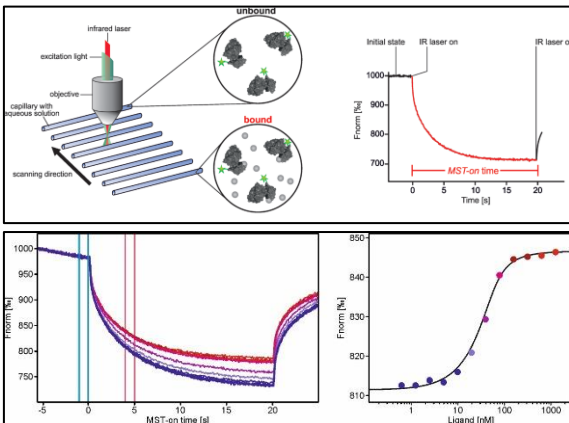
マイクロスケール熱泳動 (MST) / 生体分子間相互作用測定装置



Monolith 標準キャピラリータイプ



Dianthus ハイスループット 384 Well タイプ



マイクロスケール熱泳動 (MST)

マイクロスケール熱泳動は簡単、迅速、且つ、高精度な生体物質反応の定量手法です。

IR レーザーの照射により液体が加熱され、生じた熱勾配により物質が熱泳動します。生体分子の結合状態により、大きさ、水和殻や荷電状況が変化し、その泳動速度に影響を与えます。(ThermoPhoresis)

また、蛍光標識分子は加熱により蛍光が減衰する性質を持っており、この減衰速度は蛍光標識分子近傍の環境変化に依存します。

専用の蛍光試薬は特に感度の高い分子を選択しました。(Temperature Related Intensity Change / TRIC)

MST は熱泳動と TRIC の両方を合わせた現象です。リガンド濃度に応じたターゲットとの反応量に依存して MST トレースが変化します。MST トレースの任意の時間の蛍光減衰量を縦軸、リガンド濃度を横軸にプロットして、50%反応量の点のリガンド濃度を親和性(Kds)として評価します。

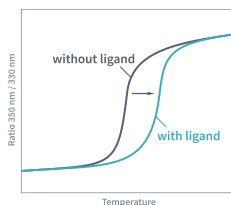
低濃度、微量、且つ、固定化せずに測定できます。キャピラリー内での測定のため、凝集によるメンテナンスの心配なく様々な条件下のサンプルを測定できます。MST トレースからサンプルの凝集が判定でき、擬陽性判定の参考として利用できます。



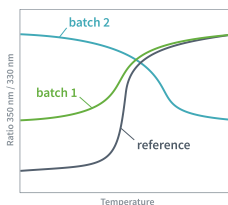
Tycho はタンパク質の立体構造状態を短時間で評価します。35~95℃の範囲を 30℃/分の速度で加温し、その間に検出される蛍光(330nm と 350nm)を測定します。加温によりタンパク質の立体構造が崩れ、内在していたトリプトファンとチロシン残基が表面化します。これにより生じる蛍光比率(350/330nm)の変化をプロットし、サンプルの立体構造状態として評価します。標準サンプルをリファレンスとし、リファレンスとの差から状態を判断します。

Tycho キャピラリータイプ

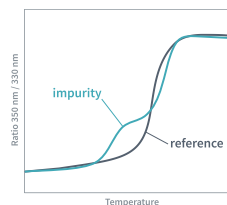
機能性確認



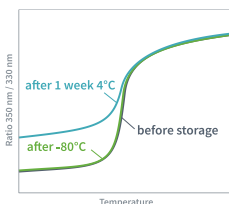
同一性確認



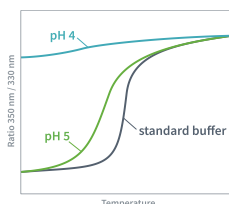
純度確認



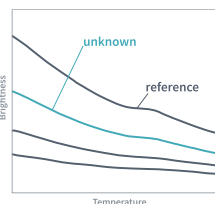
保存状態確認



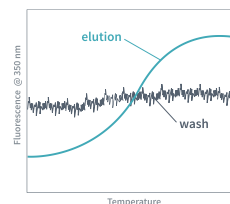
バッファースクリーニング



濃度確認



タンパク精製確認



仕様・型番などは改良のため予告なしに変更する場合がございます。お問い合わせください。

日本総代理店

株式会社 センtral 科学貿易

URL <https://www.cscjp.co.jp/>

本社	136-0071 東京都江東区亀戸1-28-6	タニビル3F
	Tel 03-5627-8150 Fax 03-5627-8151	
技術・物流C	272-0146 千葉県市川市広尾2-1-9	
	Tel 047-701-6100 Fax 047-701-6116	
大阪支店	533-0031 大阪府大阪市東淀川区西淡路1-1-36	新大阪ビル
	Tel 06-6325-3171 Fax 06-6325-5180	
福岡営業所	812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-2-15	事務機ビル
	Tel 092-482-4000 Fax 092-482-3797	
札幌出張所	001-0911 北海道札幌市北区新琴似11条7-13-2	
	Tel 011-764-3611 Fax 011-764-3612	

販売代理店